

伐株山には「石童丸悲話」にまつわる石造が数体安置されています。
この悲話に感動した高勝寺の開祖梅木栄治師は発願し伐株山を高野山に見立て、
四脚の石像を建立しています。



石童丸悲話

妻と妾（めかけ）の醜い嫉妬心を見て世の無常を感じ、領地と家族を捨てて出家し、寂昭坊等阿法師、苅萱道心（かるかやどうしん）と号して、源空上人（法然）のもとで修行し、高野山に登った。その息子である石童丸は、母とともに父親探しの旅にでる。旅の途中に出会った僧侶から父親らしい僧が高野山に居ると聞く。高野山は女人禁制 母を籠の宿において一人で山に登り、偶然父親である等阿法師に出会うが、父親である等阿法師ははるばる尋ねてきた息子に、棄恩入無為の誓いのために、自分があなたの父親ですと名乗ることはせずに、あなたが尋ねる人はすでに死んだのだと偽りを言い、実の父親に会いながらそれと知らずに戻った。石童丸が高野山から戻ると母親は長旅の疲れが原因ですすでに他界していた。頼る身内を失った石童丸はふたたび高野山に登り、父親である等阿法師の弟子となり、互いに親子の名乗りをすることなく仏に仕えたという哀話。

山頂の土塁に稚児大使像（弘法大師空海の幼児の姿柏真魚）。東端には山をおりる石童丸を見送る刈萱（かるかや）道心像。稚児落としへ下る入口に無名橋、そのすぐ下には刈萱道心を振り返る石童丸像があります。また、谷口地区の稚児落とし登山道入口には玉屋の宿で床にふす母千里姫像がすえられています。



玖珠城は標高685.5mの伐株山に築かれています。



のどかな田園風景に心が癒される〜♪



伐株山 山頂より玖珠町内を望む

玖珠城は、南北朝時代に築かれた城と伝えられます。城が画期的な発達を見せたのが、この時代の山城であり、山岳寺院の城郭化は地方にもすぐに波及していきました。元々は高勝寺という天台宗系の山岳寺院の寺坊であったため、中央からの情報により、当時高勝寺の僧兵であった人々が、地元の小田氏・魚返氏とともに早くから籠城の準備が進められていたものと思われます。

この時の戦いは、建武3年（1336年）3月24日に始まり、落城する10月12日まで約8ヶ月間も続きました。これもひとえに伐株山そのものが天然の要害であり、また独立した山であるが、水が山頂にあること、食料の調達には麓に住む武士達が多く籠城しており比較的スムーズにいったことなど、もろもろの理由が考えられます。そして急峻な山容であり、小田側に今も残る「千人石伝説」に見るように、下からの攻撃には不向きな地形であった。この玖珠城こそ南朝方が初期にもっとも多用した山岳寺院の城郭化であり、九州でも大きな拠点となり得たところでもあります。



★ 佐伯 真魚（さえきまお）
弘法大師空海の出家する前の名前



★ 苅萱道心（かるかえどうしん）
石童丸の父。俗名加藤左衛門繁氏。筑前国苅萱の武士だったが、無常を感じて出家し、高野山にはいる。



★ 千里姫（せんりひめ）
石童丸の母



★ 石童丸（いしどうまる）
苅萱道心と千里姫のこども



★ 針の耳
伐株山山頂には、高勝寺と言うお寺がありこの険しい山道はかつて修行僧や信者が往来していたところです。



★ 千人石
下から攻め上る兵に、上から大石を落としたら、千人の兵を殺したという伝説の石



♥いいね！ 素晴らしい景色 伐株山西側よりフライト



標高685.5mの伐株山 頂上からのながめは、最高に気持ち良いです〜(´-`)☆

♥おそろへとびせしろう！ ハイジのブランコ



道の駅くすから美味しい軽食を運んでくるよ！